

京都市告示第 299号

京都市名誉市民表彰条例の規定に基づき、平成20年10月15日付けで次の者を京都市名誉市民として表彰しました。

平成20年10月21日

京都市長 門川 大作

住 所 京都市左京区下鴨南芝町22番地

氏 名 岡 田 節 人

生年月日 昭和2年2月4日生

1 略歴

昭和25年3月 京都大学理学部動物学科卒業

昭和36年12月から
京都大学理学部助教授

昭和42年7月まで

昭和42年8月から
京都大学理学部教授

昭和60年3月まで

昭和54年1月から
日本発生生物学会会長

昭和57年12月まで

昭和56年9月から
国際発生生物学会総裁

昭和60年8月まで

昭和59年10月から
岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所所長

平成元年3月まで

昭和60年4月 京都大学名誉教授

平成元年4月から
岡崎国立共同研究機構機構長

平成3年3月まで

平成5年4月から
J T生命誌研究館館長
平成14年3月まで
平成14年4月 J T生命誌研究館名誉顧問

2 受賞

昭和63年5月 アルコン科学賞
平成元年8月 ハリソン賞
平成2年11月 紫綬褒章
平成7年11月 文化功労者として顕彰される
平成10年11月 勲二等旭日重光章
平成17年1月 京都府文化賞特別功労賞
平成19年11月 文化勲章
平成19年12月 伊丹市名誉市民

3 業績

氏は、永年の研究生活を通じて、世界で初めて水晶体細胞の培養に成功され、また、目の色素上皮細胞の水晶体への形質転換を実証することにより、神経性網膜細胞に多分化能力が潜在することを示されるなど、発生生物学の発展に大きな足跡を残された。

昭和42年からは京都大学理学部教授、昭和59年からは岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所所長、平成元年からは同機構長として、後進の育成に努められるとともに、一般向けの著作も意欲的に執筆され、平成5年のJ T生命誌研究館館長就任後は、生物学を分かりやすく多くの人々に伝えるべく力を尽くされるなど、科学界の未来を見据えた取組を積極的に展開してこられた。

これらの活動を通じ、我が国の学術文化の向上に大きく寄与されたことにより、平成2年には紫綬褒章を受章され、平成7年には文化功労者として顕彰され、そし

て、平成10年には勲二等旭日重光章、平成19年には文化勲章を受章されるなど、その功績は高く評価されている。

また、クラシック音楽に関する造詣^{けい}も深く、財団法人京都市音楽芸術文化振興財団理事長、京響友の会会長をはじめとする要職を歴任され、本市の文化芸術の振興に比類なき貢献をいただいている。

(総合企画局市長公室秘書課)